第３回のセミナーを６月１０日(土)　13:30～15:30 に開催しました。

会　場：愛知文教大学　２０１教室

テーマ　問題解決学習の実践から考える主体的な学び

講　師　　東海学園大学　講師　　埜嵜　志保 先生

実践発表者　刈谷市立朝日中学校　　伊倉　　剛　先生

今日の講座で学んだ中で重要だと思ったことは、多面的に物事を捉えることが生徒のみならず、教員側にも大切であることがわかりました。意見を否定せず、肯定的に受け入れることも自己承認欲求をくすぐる手立てとして有効であり、それが主体的で対話的な学びにつながることも学びました。
今日の講座で学んだ中で重要だと思ったことは、教室(＝擬似的な社会)への価値の承認の要求・・・学びの場である教室の捉え方の拡張と転換であると感じました。 伊倉先生の、事前にある程度用意されていた調べたことの発表から、その場で考えたことの発言への転換。恐らく教師の立ち止まりに加えて板書の活用による追究への転換が、相変わらず見事です。それを分析する埜嵜先生の切り口の確かさと鋭さ。 それぞれが１つのセミナーを構成できる内容があり、内容過多かもしれません。それだけ内容豊富なセミナーになりました。
今日の講座で学んだ中で重要だと思ったことは、他者との関係概念としての主体です。 大学で伊倉先生の授業記録を分析していく中で、私も「お金」こそが子どもたちに切実さを感じさせるキーワードだと思っていました。それが、伊倉先生の授業に対する思いとして、本日語っていただけたことが、何よりも嬉しい贈り物でした。子どもたちがあれ程までに他者の話に耳を傾け、意図的あるいは無意識のうちに互いがつながる姿には感動すら覚えます。調べてきたことを発表することは、力のある子どもたちならできるでしょう。しかし、互いに聴き合いつながることは、教室にその文化がなければ実現できません。伊倉先生と直接お話をして、授業にかける思いが伝わってきたように感じました。 　そして、埜嵜先生がこの授業にほれ込み、子どもたちの事実にとことん寄り添った分析をされたからこそ見えてきた「主体」の姿。同じ記録を読み込んでも、自分にはまだ、その領域にはたどり着けません。教師という経験が、逆に子どもたちの姿を型にはめて見ようとしているのかもしれません。そのことを、あらためて気づかせていただけたセミナーでした。本当にありがとうございました。
今日の講座で学んだ中で重要だと思ったことは、問題解決の中に「自分」が出てくることを大切にすることです。 伊倉先生が、何を大切にしたいのか、何を子どもに大切にしてほしいのかという視点を大切にされているという話をお聴きし、心が熱くなりました。 授業記録を拝読させていただき、子どもが取材をとおして現場の方と対面し、現状や思いを知ることで、本当の問題として子どもが考えられるのだと気づくことができました。 取材に行って農家の方と話をした子の発言からは、調査内容が具体的に自分の言葉で語られたり、何とかしなければという願いも語られたりしていることがわかりました。ネットで調べたらわかることが多い世の中であっても、対面し対象者の方の生の声を聞くことは価値高いこと

だと改めて学ばせていただきました。
問題解決学習を進める上で、自分の考えは語るがどこか人ごとのような雰囲気に悩んでいました。今日は埜嵜先生から、こどもたちがただ、言葉を繋いでいるのではなく、何の言葉をつなげるか吟味していることを教えていただきました。問題を自分ごととして考えていれば、子供達は自ら問題解決に必要なキーワードでつないでいくことがわかりました。意見を交流させることは、聴き合うことなのだと学ぶことができました。
　最近、「子どもが楽しい教材や題材」、「意見交流が盛り上がる問題が生まれるか」ということばかりに目を向けつつある自分に気づき、そこには目の前の子どもへの願いがないのではと、はっとしました。自分の在り方を省みる機会をいただきありがとうございます。
　今日埜嵜先生、伊倉先生、参加者の皆様に学ばせていただいたことを大切に、実践していきたいです。ありがとうございました。

　今日の講座で学んだ中で重要だと思ったことは、探究の素晴らしさです。
　そもそも、こんなにも深く考え表現できる中学生に育て上げた伊倉先生のお力に敬服します。生徒の発言の一つ一つが調べてきた根拠をもとにしており、他の生徒の意見を聴いて反応し繋がっていることに驚きました。そして、その誰もが日本の農業を自分事のように考えているのが素晴らしいと思いました。私にとっては、81 志乃さんのＩＣＴとのコラボや、83 優花さんの売り方にも注目しているのが驚きでした。問題解決学習というタイトルでしたが、探究そのものであり総合的な学習ではと思いました。
　こうして、生徒の発言の一つ一つを細かく深く分析することの大切さ、生徒の心情を捉えることの大切さを改めて学ばせていただきました。いただいた資料を丁寧に読ませていただこうと思います。肖像権等がありますので困難でしょうが、願わくば、どんな表情で話しているのか、他の生徒を聴いてどんな反応や表情をするのか、見てみたいものだと思いました。ありがとうございました。

　今日の講座で学んだ中で重要だと思ったことは、リフレクションの学び、根拠をもとにした学び合う学びです。
　ありがとうございました。現在お休み中の授業で育つ教師の会を思い出し、懐かしく感じました。ビデオなしで授業記録を読んで、皆さまからのお話を聴き、学び合う中で少しずつ映像が浮かんできました。お二人の講師の先生方のおかげで、とってもたのしい、幸せな時間を過ごしました。

　今日の講座で学んだ中で重要だと思ったことは、生徒の活動を教師が遮らないことです。
　課題解決学習というと、教師のファシリテーション能力が重要だと思って臨んだ。大人の会議のファシリテーションは、実は持って行きたい方向があったりして、確かにそうではあるが、生徒の課題解決学習の場合、教師があまり仕切ってしまうと、生徒は次第に仕切られたり、誘導されたりすることを待つようになってしまう。自分で考え、発言しなければならない状況にさせるために、そうならないようにしたい。とは言っても、議論が停滞してしまったり、ずれていったりしたときに、適切に働きかけることが必要で、予想外の状況にもとっさに対応しなければならず、やはり教員にはかなりの力量が必要だと思った。

今日の講座で学んだ中で重要だと思ったことは、主体性とはなにかを学びました。 主体性とは何かを考える事ができたことが大変学びになりました。生徒が意見をもち、それにたいしてこだわりをもつことが主体性の第一歩だと感じました。さらに、他者と意見が異なったときに伝えたい。と思えることが真の主体性なのかなと思いました。このような機会をいただきありがとうございました。
今日の講座で学んだ中で重要だと思ったことは、学びを生み出す間の重要性です。 本日は、大変多くのことを学びました。どこの学校でも普通に行われている教科書を教える授業と違い、問題解決を目指す学びには、教師に大きな覚悟を求めている。その覚悟は、教科書に書かれている知識を丁寧になぞり伝達することをせず、子ども自身がテーマを追求する中で必要な知識に出会っていくという学習者への信頼である。伊倉先生の実践には、子どもへの信頼が溢れており、子どもたちは教科書内容をのびのびと学びこえている。 授業記録を読み合い、参加者による気づきを全体で共有する場面では、伊倉先生が板書しながらファシリティートされた。参加者自身の学びが語られると同時に、伊倉先生への質問が出される。しかし、すぐに応えない。この間が心地よく、必然考えさせられる。きっと、中学校における授業実践には、これと同じ間が存在するのだろう。だから、子どもたちは考え、友達の考えに重ねた発言ができる。「切実な、リアルな学びにしたい」との伊倉先生の願いが、取材先での探究から子どもたち自身の想いや願いを生み、教室で語り合う活動に主体的な学びを創っている。 埜嵜先生の授業分析の視点には、驚かされました。談話空間で生み出される言葉、願いを持った子供たちが、自己の存在をかけた学びになっていくプロセスが腹に落ちました。２時間ではもったいないほどの内容であり、続編を期待したい思いです。